

- 問1 運慶が快慶らと協力して制作した、奈良の東大寺南大門に安置されている有名な彫刻作品を何という？
- 問2 鎌倉時代に琵琶を弾きながら、平氏の栄枯盛衰を語り歩いた軍記物語を何という？
- 問3 承久の乱において、倒幕を狙って挙兵した上皇は誰？
- 問4 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？
- 問5 鎌倉時代の武士の間で行われていた、子どもたちに領地を分け与える相続方法を何という？
- 問6 11世紀末、ローマ教皇の呼びかけで、イスラム勢力から聖地エルサレムを奪還するために組織された遠征軍を何という？
- 問7 十字軍の遠征が活発に行われた時期は、日本の歴史ではどの時代にあたる？
- 問8 承久の乱で朝廷に勝利した後、鎌倉幕府が京都の朝廷を監視するために設置した役所を何という？
- 問9 1185年に全国の荘園や公領へ地頭を置く権限を朝廷に認めさせた、鎌倉幕府の初代将軍は誰？
- 問10 鎌倉時代に書かれた文学作品『方丈記』の著者は誰？
- 問11 13世紀後半、モンゴル帝国による二度の襲来を受けた出来事を何という？
- 問12 モンゴル帝国が中央アジアを征服し、世界規模で勢力を広げたのは何世紀？
- 問13 鎌倉時代に宋から帰国し、臨済宗を日本に伝えた僧は誰？
- 問14 後鳥羽上皇が鎌倉幕府の打倒をめざして挙兵し、幕府軍に鎮圧された「承久の乱」が起こったのは何年？
- 問15 鎌倉時代、税として年貢が徴収されていた土地の種類を何という？
- 問16 鎌倉幕府において、将軍が御家人の何を守る（安堵する）ことを根拠とした主従関係を「御恩と奉公」という？
- 問17 琵琶法師によって語り継がれた、平氏一族の栄枯盛衰を描いた軍記物語を何という？
- 問18 法然が庶民に信仰を広めた、死後の安らかな世界を何という？
- 問19 一遍が踊り念仏を通して信仰を広めた、浄土信仰の中心となる仏を何という？
- 問20 モンゴル帝国が中央アジアから支配下に置いた、西側の地域はどこ？
- 問21 源頼朝が御家人たちに与えた、土地の領有権を認めたり保証したりする権利を何という？
- 問22 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 金剛力士像	東大寺南大門に配置された金剛力士像は、運慶と快慶らの工房が分担して短期間で完成させました。筋肉の盛り上がりや血管の浮き出た表現、衣のひだの動きなど、極めて写実的で生命感あふれる特徴を持っています。
問2	答え 平家物語	平家物語は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華とその滅亡を描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声…」という有名な書き出して始まり、武士の戦いぶりや人生のはかなさが強調されています。文字が読めない人も多かった当時、琵琶法師が日本全国を回り、琵琶の伴奏とともに節をつけて語ることで広く普及しました。
問3	答え 後鳥羽上皇	後鳥羽上皇は、北条義時追討の院宣を出し、全国の武士に呼びかけて幕府打倒を試みました。しかし、北条政子の演説により結束した幕府軍の前に敗北しました。
問4	答え 防塁	博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしづいじ）とも呼びます。
問5	答え 分割相続	当時の武士社会では、家督を継ぐ長男だけでなく、他の兄弟にも領地を分ける分割相続が一般的でした。これにより、相続のたびに個々の武士が持つ土地が細分化され、一つの家が持つ経済力が低下していきました。
問6	答え 十字軍	1095年、ローマ教皇ウルバヌス2世の呼びかけにより、聖地を奪還するための軍勢が組織されました。遠征は複数回にわたって行われ、盾に十字の印をつけたことから「十字軍」と呼ばれます。
問7	答え 鎌倉時代	十字軍が始まった1095年は日本で院政期（平安時代末期）にあたりますが、戦いが本格化した12世紀から13世紀にかけては、ちょうど鎌倉幕府が成立し、発展していく時期にあたります。
問8	答え 六波羅探題	鎌倉幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは、単に京都の治安維持を行うだけでなく、朝廷の監視、さらには西日本の御家人の裁判や統率を担う重要な機関でした。これにより幕府の支配力は西日本にまで大きく広がることとなりました。
問9	答え 源頼朝	源頼朝は、朝廷との交渉を通じて全国に守護と地頭を置くことを認めさせました。守護は軍事・警察を、地頭は土地管理と徴税を担い、武士が社会の主役となる画期的な体制を確立しました。これが後の鎌倉幕府の実質的な支配システムとなります。
問10	答え 鴨長明	鴨長明は、貴族社会から離れて隠遁生活を送った人物です。京都郊外の日野山に小さな草庵を結び、そこで体験した世の中の厳しい出来事や仏教的な無常観を書き残しました。これが文学作品として高い評価を受けている『方丈記』です。
問11	答え 元寇	1274年の「文永の役」と、1281年の「弘安の役」の二度にわたり、元軍が日本に襲来しました。幕府は御家人を動員して防戦し、九州各地で激しい戦いが繰り広げられました。特に弘安の役では、日本側が築いた石築地などの防衛と暴風雨も重なり、元軍は退却しました。
問12	答え 13世紀	1206年のモンゴル帝国建国から、13世紀を通じてモンゴル軍は東西に遠征を行いました。この時代は日本という鎌倉時代の中期にあたり、幕府にとっては東アジアの情勢が大きく変化した激動の時期でした。
問13	答え 宋西	鎌倉時代は、激動の世の中で武士を中心に新しい仏教が求められていた時代です。宋に渡り修行した宋西は、帰国後に禅宗の一つである臨済宗を伝えました。彼はまた、宋から茶の種を持ち帰ったことでも知られ、日本における喫茶の習慣を広めるきっかけを作った人物としても有名です。その後、禅の教えは武士の気風と合致し、鎌倉を中心に広く浸透していきました。
問14	答え 1221年	1221年、後鳥羽上皇が中心となって起こしたのが承久の乱です。これに対し、幕府は北条政子の演説で御家人を結束させ、京都へ軍勢を送りました。幕府軍の勝利は、それまで優位であった朝廷が武家に完全に屈服したことを意味しました。
問15	答え 荘園	荘園は、貴族や有力な寺社などが所有する土地で、そこから上がる収益が当時の支配階級の重要な経済源でした。鎌倉幕府が成立すると、幕府は各地の荘園にも「地頭」を配置し、年貢徴収や管理の権限を握りました。これにより、それまでの公領（朝廷直轄地）と並び、武士の支配対象となりました。
問16	答え 土地	將軍は御家人の領地（本領）を「安堵（保証）」し、時には新しい領地（新恩給与）を与える「御恩」を与えました。一方、御家人は戦いの際に軍役に従事したり、幕府の警備をするなどの「奉公」を行いました。
問17	答え 平家物語	『平家物語』は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華と、源氏との戦いによる滅亡を描いた作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な一節にあるように、世の中の無常さを説く「無常観」が根底に流れています。
問18	答え 浄土	浄土とは、阿弥陀仏が治める、迷いや苦しみから解放された極楽世界のことを指します。法然は、この浄土へ生まれ変わることを願い、ひたすら念仏を唱えることが重要だと説きました。この信仰は、現世の不平等に苦しむ人々にとって、唯一の救いとしての意義を持っていました。
問19	答え 阿弥陀仏	阿弥陀仏は、無限の寿命を持ち、すべての生き物を救う仏と信じられていました。鎌倉時代には、念仏を唱えるだけで救われるという考えが民衆に受け入れられ、一遍のような僧侶たちが熱心に信仰を普及させました。
問20	答え ヨーロッパ東部	モンゴル帝国の支配はアジアにとどまらず、西へ大きく拡大しました。中央アジアを経て、東ヨーロッパにまで達しました。これにより、ユーラシア大陸の東西をつなぐ広大な支配圏が確立されました。
問21	答え 御恩	「御恩」とは、將軍が御家人に対して本領の安堵（土地の支配権を認めること）や、新しい領地の供与を行うことです。これに対して御家人は「奉公」という軍役や警備の義務を負いました。
問22	答え 貞永式目	制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「貞永式目」とも呼ばれます。特に、守護の権限を警察・裁判権に限定する「大犯三箇条」などが規定され、御家人の権利を守る内容が含まれていました。